



写真2 | 2階テラスから中庭越しに階段を見る。ガラス壁を光が透過し、屋外階段のように見える

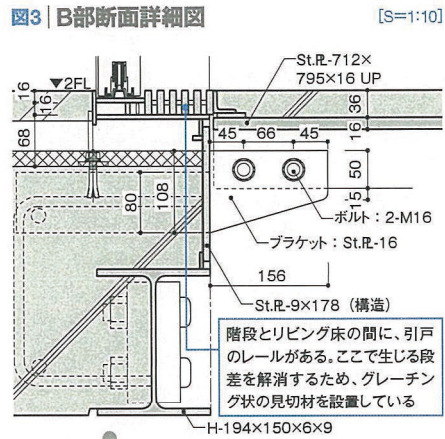
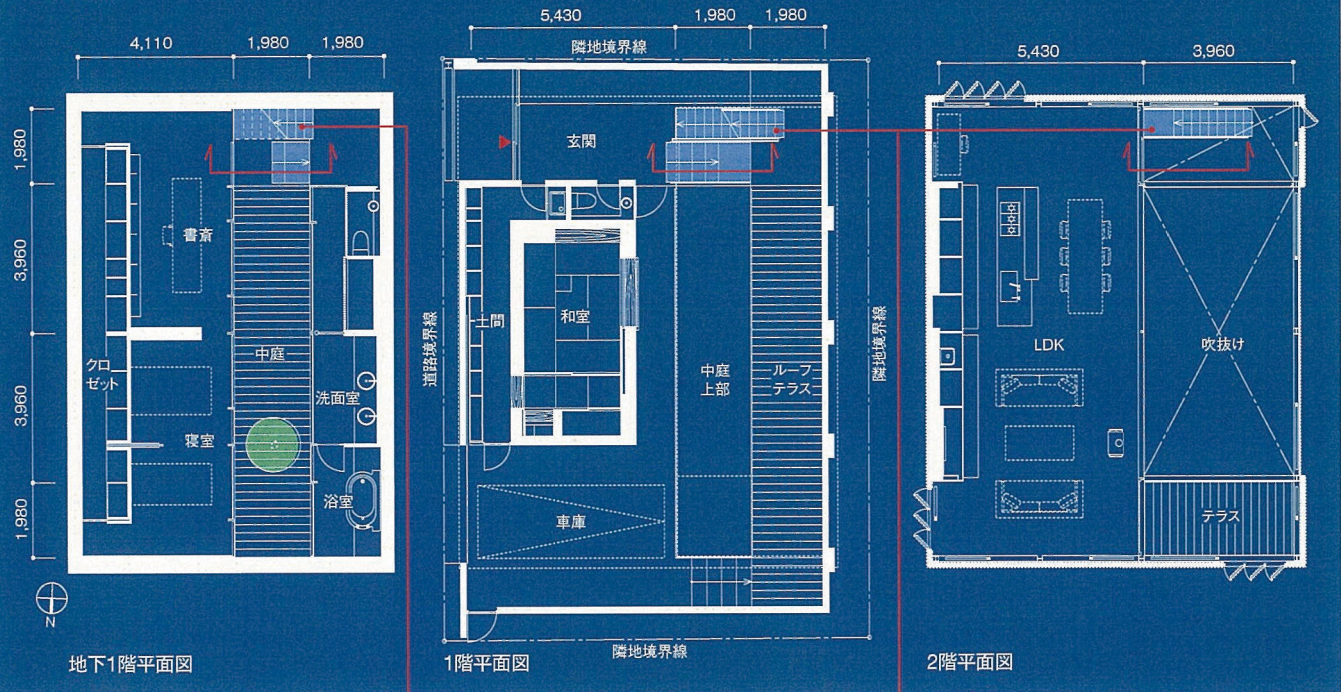


図3 | B部断面詳細図 [S=1:10]

階段とリビング床の間に、引戸のレールがある。ここで生じる段差を解消するため、グレーディング状の見切材を設置している

図1 | 平面図 [S=1:200]



地下1階平面図

階段はLDKや寝室、水廻りなどから独立した配置で、庭に向かってガラス張りの開放的な空間となっている

図4 | 階段断面図 [S=1:50]

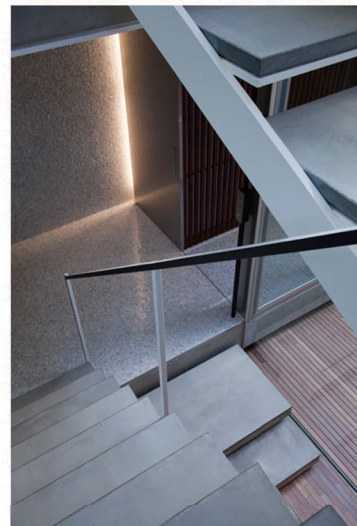
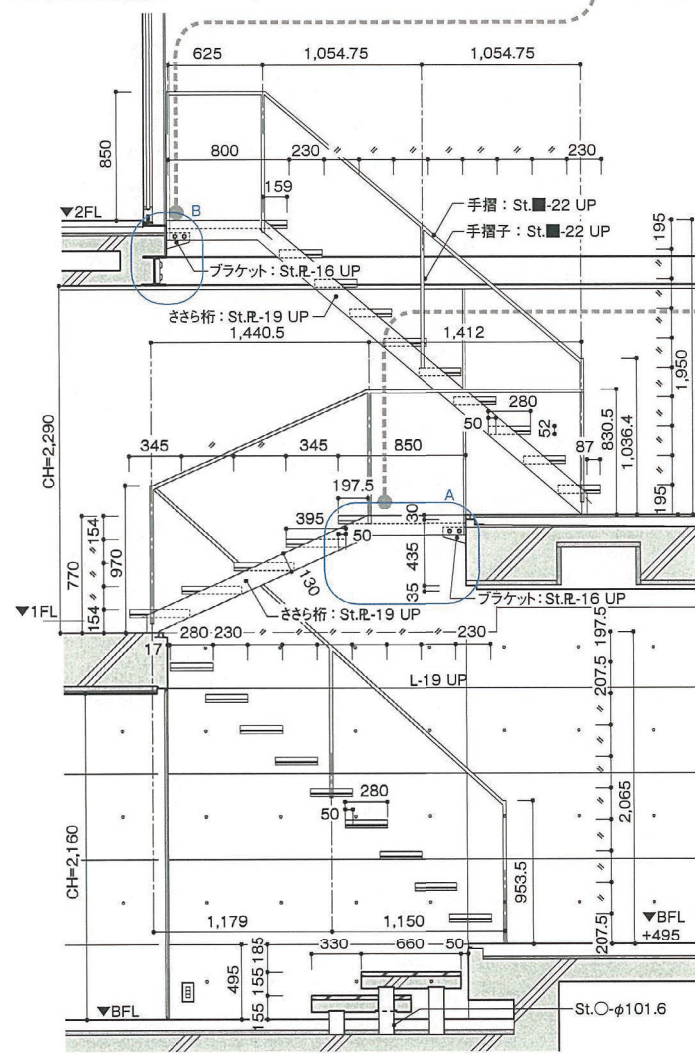
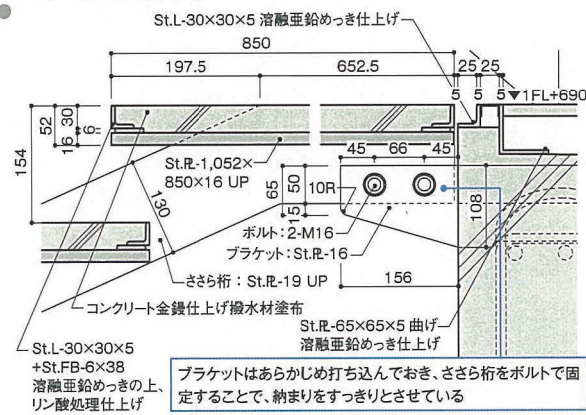


写真3 | 1階から地下1階への階段見下ろし。写真右上に見える2階への階段はささら桁の幅を狭くして、段板の側面を見せている

図2 | A部断面詳細図 [S=1:10]



ブラケットはあらかじめ打ち込んでおき、ささら桁をボルトで固定することで、納まりをすっきりとさせている

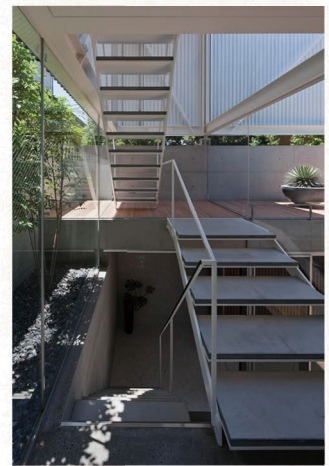


写真2 | 1階玄関からルーフテラス側を見る。踏み面のコンクリートの質感が階段を1つにまとめている

複数の階段を共通の質感・納まりでまとめる

4種類の階段を1つに見せる  
スキップフロアなど複数の階段が必要な場合、各階段の勾配や段板の納まりが変わると、全体の統一感を欠いてしまう。ここでは散漫な印象とならない具体的手法を紹介する。この階段は地下1階から2階まで4種類のレベル差に設けられ、段板の支え方や勾配の違いで「4種類の階段」となっている「図1、4」。まず、上りやすく、かつその階に馴染む階段とするため、蹴上げ・踏面の寸法を調整し、片持ち（地階）やささら桁階段（1〜2階）など見せ方を、階ごとに工夫した。次にこれらの階段を1つに見せるため、踏み面の素材とその納まりをそろえている。共通する踏み面の材料はコンクリートとし、これをスチールアングル（30×30mm）の枠内に打設して基本形とした「図2」。地階の段板は、φ101.6mmのスチールパイプに現場打ちの軽量PC板を載せ、その上に基本形の板を置いた。1階への階段は、片持ち支持のスチールプレートに基本形の板を載せた。2階への2つの階段は、スチールプレートと基本形の板をささら桁で挟んでいる。いずれも基本形の板の側面を見せて出している「図4」。